

腎臓内科研修

腎臓内科ローテーション研修目標

腎臓病の慢性腎不全への進行の結果、血液透析治療による患者のQOL及び予後の低下と医療経済の負担を未然に防ぐことができるように、腎臓疾患の適切な鑑別診断と治療をおこなう能力を身につける

経験すべき病態・疾患・検査・治療法

1. 症状、身体所見、検査所見より鑑別診断、初期治療を的確に行えるために病態について説明し適切に対応できる
 - ① 電解質異常（酸塩基平衡、Na、K、Ca、P、H₂O など）
 - ② 尿路感染症
 - ③ 高血圧（腎血管性、腎実質性高血圧）
 - ④ 蛋白尿、血尿
 - ⑤ 急性腎不全
 - ⑥ 腎炎 ネフローゼ
 - ⑦ 慢性腎不全
 - ⑧ 糖尿病性腎症
 - ⑨ のう胞性腎疾患
 - ⑩ 腎疾患と妊娠
 - ⑪ 腎と薬物動態
 - ⑫ 全身疾患と腎
2. 適切な検査により早期に的確に診断し治療するために
 - ① 検尿検査を自ら実施できる
 - ② 生化学検査、腎関連ホルモン検査：レニン、アルドステロン、VitD、PTHの解釈ができる
 - ③ 腎機能検査：クレアチニンクリアランスを自ら実施できる
 - ④ 画像診断と検査：腹部エコー検査、CT MRI DSA の適応を述べ読影ができる
 - ⑤ 腎生検：適応と禁忌を述べ、生検時の補助、腎組織所見の読影（光顕、免疫染色、電顕ができる）
3. 薬物治療に加え非薬物治療の適応および内容について患者に説明し、治療的な処置ができるようにするために
 - ① 血液透析の適応について説明でき、血液透析機器の組み立て（血液透析の準備）、透析の管理の補助ができる
 - ② 血液透析に関係する処置（ダブルルーメンカテーテル挿入と管理、シャント穿刺）を実施ないし補助ができる
 - ③ 血漿交換、吸着療法の適応に説明ができ、処置の補助ができる
 - ④ 腎疾患の食事療法につき患者に説明ができる
 - ⑤ ブラッドアクセス手術の助手ができる